

(6) 学校事務部会

会 長 芝 恵 (中村南小)
副会長 酒井 健太郎(中村南小)
事務局 松本 望 (中村南小)

1. 研究主題 「 人権意識を高め、新しい時代に対応する事務職員をめざして 」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
5月6日(木)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、年間計画作成	中村南小学校	23名参加
7月30日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：人権意識を高め、新しい社会に対応する 事務職員をめざして 講師：西部教育事務所 岸本 知直 指導主事	中村小学校	21名参加

3. 今年度の取り組み

四万十市教育研究会 夏季研修会

○講話

(1) 人権について

- ・人が幸せに生きるための権利
- ・「一人ひとりが人間らしく生きていくために、生まれながらにして持っている。人が個人として尊重され、安全で安心して安定した生活を送るため欠くことのできないもの」
- ・一人ひとりが尊重される社会・多様な文化や価値観・共生社会
→真に人権が尊重される明るい社会・誰もが「自分らしく」生きられる社会へ



・高知県の身近な人権課題

- ①同和問題 ②女性 ③子ども ④高齢者 ⑤障害者
- ⑥HIV感染者等(エイズ・ハンセン病・新型コロナ感染症)
- ⑦外国人 ⑧犯罪被害者等 ⑨インターネットによる人権侵害
- ⑩災害と人権 ⑪性的指向・性自認
- ⑫その他の人権課題(アイヌの人々・刑を終えて出所した人・ホームレスなど)

(2) ジェンダー平等について

ジェンダーバイアス：性別に基づく、誰もが潜在的に持っている偏った見方や考え方。

固定的な性別の役割分担意識。

ジェンダーギャップ指数(男女格差の度合いを示す指数)が日本は156か国中120位

(3)性的思考・性自認について

「LGBTQ+」に該当する比率は8.9%（11人に1人）

L：（レズビアン）女性の同性愛者

G：（ゲイ）男性の同性愛者

B：（バイセクシュアル）両性愛者

T：（トランスジェンダー）生物学的な性と性自認が異なる人

Q：（クエスチョニング）性的指向・性自認をあえて決めていない・わからない人

+：他にも様々なセクシュアリティがあること、枠を限定せず常に新しい多様性に開放的であることへの意味が込められている

【学校現場における対応・取組み】

- ・教職員に対する性的思考・性自認（SOGI）に関する適切知識の研修と指導
- ・情報発信、啓発（ほけんだより、学級通信等の活用）
- ・いかなる理由でもいじめや差別を許さない生徒指導・人権教育を推進する（支援の土台）
- ・日頃より児童生徒が相談しやすい環境を整えていく
- ・相談を受けた場合は、まずは悩みや不安を聞く姿勢を示す
- ・児童・生徒からの相談に応じることのできる適切な体制の整備

（支援の事例）

①服装：自認する性別の制服・衣服や、体操服の着用を認める

②髪型：標準より長い髪型を一定の範囲で認める（戸籍上男性）

③トイレ・更衣室：保健室や多目的トイレの使用を認める

④水泳：上半身が隠れる水着の着用を認める（戸籍上男性）・補習として別日に実施またはレポート提出で代替する

⑤部活動：自認する性別に係る活動への参加を認める・ユニフォームや物品の色分け

⑥修学旅行等：1人部屋の使用を認める・入浴時間をずらす

- ・児童生徒の呼び名、名簿やグループ分けの工夫（男女分けはしない等）

※様々なケースが考えられるため、機械的・画一的ではなく、個別の対応を心掛けることが重要

◇参加者からの意見・感想

- ・学校に勤めるものとして、事務職員もこういった事について学ぶ必要性を感じました。
- ・講師の丁寧な説明と資料により、漠然と認識していた人権課題・ジェンダー平等・LGBTQ等について、詳しく知ることができ有意義な研修となった。
- ・情報発信の仕方や、性別によるグループ分け等、学校の中でも配慮や工夫が必要な部分が多くあると気付きました。教職員全員で、子どもたちが個性を發揮できる過ごしやすい学校づくりを意識していかなければならないと思いました。



- ・名簿や呼名、図書室や職員室の資料・本の整備等、自分たちが今からできることは、そう難しいことではないのかもしれないとお話を聞いていて感じました。
- ・多くの児童生徒や保護者、地域との関わりがある学校現場で仕事をしているということは、多様性にあふれる場であるという認識のうえに、関わりを持ちたいと思った。
- ・研修の中では、世界と比較した日本の状態をデータを通して知ることができ、経済・政治・教育・医療の様々な面で、日本がまだまだ遅れていることがわかりました。

4. 今年度の成果と課題

今年度の夏季研修は人権について学ぶ場とした。「LGBTQ+」等新たな人権課題も学び、参加者それぞれが人権課題への理解を深めるとともに、人権意識を高めることができた研修となった。

研修を受ける中で自校でできることを考えたり、自分達自身が児童生徒や教職員、地域の方に影響を与える立場にあることをしっかり認識し、多様な個性を尊重して過ごしていきたいと感じた。また、トランスジェンダーの場合、トイレや更衣室が男女で分かれていることが心身へのダメージにつながることや、11人に1人がLGBTQ+に該当するということを学び、多様な価値観に対応した学校現場にするための課題について考えさせられた。誰もが尊重され、過ごしやすい環境を提供し、より良い学校にしていくために、これからも人権感覚を磨いていきたい。

また、今回の研修のように新しい社会への理解を深められる研修を今後も行っていきたいと思う。